

公益社会貢献活動団体の行う施設整備事業への支援について

1. 現状の支援策 市民協働推進補助金 ハード補助金

(1) 制度概要

施設整備事業は高額になることが多く、つつじ・くすのきに比べ補助率・限度額共に高く設定された補助メニューを新たに設けた（平成 19 年度）。

対象 設立後 2 年以上の公益的社会貢献活動団体の行うハード事業

補助率 85～90%（500 千円までは 90%、超えた額は 80%）

限度額 85 万円

(2) 補助状況の推移

	応募		実績 (審査通過、精算額)	
	件数	金額	件数	金額
平成 21 年度	7 件	3,629,000 円	6 件	3,100,000 円
平成 22 年度	6 件	2,915,000 円	6 件	2,660,000 円
平成 23 年度	4 件	2,351,000 円	3 件	1,874,000 円
平成 24 年度	3 件	1,511,000 円	2 件	1,242,000 円
平成 25 年度	2 件	1,500,000 円	2 件	1,350,000 円

※平成 25 年度は予定

(3) 財源の推移

一般社団法人 民間都市開発推進機構 拠出金 10,000 千円

	① 元本積立	② 按分利子	③ 取崩額	④ 年度末現在高 (①+②-③)
平成 20 年度	10,000,000 円			10,000,000 円
平成 21 年度		18,818 円	3,100,000 円	6,918,818 円
平成 22 年度		10,464 円	2,666,000 円	4,269,282 円
平成 23 年度		6,915 円	1,812,000 円	2,464,197 円
平成 24 年度		2,785 円	1,142,707 円	1,324,275 円
平成 25 年度			1,256,480 円	67,795 円

※平成 25 年度は予定

2. 活用状況（アンケート）

別紙のとおり

3. 現状の支援策のメリット・デメリット

- (1) メリット 他の補助メニュー（つつじ・くすのき）に比べ高補助率・高限度額
- (2) デメリット 施設整備に特化したため、ソフト事業との併用を認めていない
例) 完成した施設を利用したソフト事業、完成式典等

4. ニーズ

- (1) 当初想定 (H20)
アンケート実施 (NPO・自治会)
3年間 9団体 10,000千円 (4,000千円・3,000千円・3,000千円)
- (2) 実績 (H21~H25)
5年間 19団体 約10,000千円 (526千円/件平均)
上記(1)9団体のうち実際に申請があったのは2団体
- (3) 市役所各課への調査 (H25)
現在、2団体から施設整備についての相談あり
 - ・自然環境保全活動 (カタクリ山崩落個所の復旧)
 - ・コミュニティカフェ活動 (シャッター改修)

5. 今後の支援策

- (1) 方向性 支援策の継続・廃止
 - 案1 廃止
 - 案2 現在と同内容で継続
 - 案3 くすのき補助金に統合し継続

	メリット	デメリット
案1 廃止	—	ハード事業への支援がなくなる。
案2 現在と同内容	<u>高補助率・高限度額の支援を受けることができる。</u>	<u>つつじ・くすのき補助金の財源を大きく減らすことになる。</u>
案3 くすのき補助金へ	補助率・限度額は下がるが、支援を受けることはできる。 <u>ソフト事業を併用したハード整備を行うことができる。</u>	つつじ・くすのき補助金の財源を減らすことになる。